

正法寺山荘(国史跡)(亀山市関町鷲山)

羽黒山を背に、三方を小野川の清流が流れ、自然の要塞ともなるこの地に関盛貞によって、永正（1504～）の始めに築かれたお城。昭和 52 年からの発掘調査により、四棟の建物跡・整然と石積みされた排水溝・井戸などが検出され、また北宋銭・明銭・釘・瓦・天目茶碗・青磁・白磁・染付皿などが出土し、戦国武将の砦を兼ねた山荘跡として重要な遺跡で、昭和 56 年 1 月、国の史跡に指定されました。正法寺山荘の創建や現在のまちの基になるまちづくりに関氏は努力しましたが、やがて織田・豊臣氏による全国統一の前に衰退の運命を辿っていった歴史の移り変わりを、静かな場所できみじみと感じることができます。

亀山市観光協会による

三重県亀山市関町にある山荘跡。鈴鹿(すずか)川の支流、小野川西岸にある標高 105m の河岸段丘上に位置し、鎌倉～戦国時代に鈴鹿地方を治めた豪族、関氏一族の宗家である関盛貞(もりさだ)が創建した山荘跡。関氏一族は平家を祖とし、室町時代に鈴鹿川一帯に勢力を伸ばして関氏を名のるようになった、北伊勢随一の土豪だった。永正年間（1504～21 年）の初めごろに建立された正法寺が山荘に転用され、1582 年（天正 10）に関氏が会津に移るまで、その機能を果たしたようである。西側の羽黒山を背に他の三方は小野川によって守られ、北と南は崖、東には土塁が築かれて外側下に曲輪(くるわ)跡と思われる平坦地があつて、城塞としての性格もあつたようである。発掘調査の結果、4 棟の建物跡や礎石、石積みされた排水溝、井戸などが発見され、その周囲をめぐる土塁や建物配置などが解明された。また、北宋銭や明銭、釘、瓦、天目(てんもく)茶碗なども出土している。戦国武士の生活を解明するうえで貴重なことから、1981 年（昭和 56）に国の史跡に指定された。JR 関西本線関駅から徒歩約 35 分。

コトバンクによる

